

報道関係者各位 PRESS RELEASE

「回遊をつくるエリアリノベーション。まちはどう変わる？」

金港堂本店跡地・チカ堂でトークセッションを 10 月 24 日（土）に開催

「別冊浜千鳥 at チカ堂」― 仙台と気仙沼のまちづくり対談

■ リリース概要

チカ堂プロジェクトは、仙台・サンモール一番町商店街の旧金港堂本店跡地に誕生したコミュニティスペース「チカ堂」にて、2026 年 10 月 24 日（土）18:00 より、トークセッション「回遊をつくるエリアリノベーション。まちはどう変わる？」を開催します。本イベントは、デザインスタジオ「memento mori」が主催する「別冊浜千鳥 at チカ堂」の一環として実施します。トークセッションには、memento mori 代表の志田淳と、チカ堂プロジェクトに参画する株式会社ユーメディア 佐々木和之が登壇します。

本イベントは、気仙沼・太田地区で「HAMACHIDORI GALLERY」を運営する志田淳氏が、仙台に出張する企画「別冊浜千鳥 at チカ堂」の一環として実施するものです。チカ堂をはじめ、定禅寺通やコミュニケーションデザイン・ラボ MEDIUM など、エリアブランディングに携わる佐々木和之（株式会社ユーメディア 上席執行役員）と志田氏が登壇し、それぞれの実践を紹介しながら「エリアリノベーションによって、まちはどう変わるのか」を語り合います。

トークの前には、チカ堂内の飲食店「m chika.（エムチカ）」で提供する気仙沼ルーツのお酒などで、来場者の皆さまと乾杯します（ドリンクは m chika.にて各自ご購入ください）。

■ 「別冊浜千鳥 at チカ堂」とは

「別冊浜千鳥」は、志田淳氏が主宰する気仙沼市太田地区の「HAMACHIDORI GALLERY」で毎月開催している映画カルチャーイベント「月刊浜千鳥」の出張版です。VHS テープやブラウン管テレビを、販売する商品としてだけでなく、空間をつくる装置（インスタレーション）として展示。映画を入り口に、まちの日常に新しい楽しみと、人が集まるきっかけを生み出してきました。これまでに気仙沼のブルワリー「ブラックタイドブリューイング」のタップルームでも開催しています。

「別冊浜千鳥 at チカ堂」では、「地下に行くと、映画に出会う。」をテーマに、チカ堂の地下空間に VHS やブラウン管テレビが並びます。映画パンフレットやアパレルの販売、気仙沼ルーツのお酒、そしてトークセッションまで、映画とカルチャーを軸に、気仙沼の空気を仙台に持ち込む一夜です。

開催時間：2026 年 10 月 24 日（土）17:00～21:00（トークセッションは 18:00～）

■ トークセッション開催の背景

人が訪れる「理由」をつくり、そこから人の流れを生み、周辺へと回遊を広げていく。こうした視点で場所やエリアを捉えることで、まちにはどのような変化や価値が生まれるのでしょうか。

チカ堂プロジェクトは、約 60 年にわたり仙台の文化と学びを支えてきた老舗書店「金港堂本店」の地下躯体を活かして再整備し、2026 年 8 月 5 日「地下の広場」としてチカ堂をオープンしました。単独の施設として完結するのではなく、仙台駅周辺から一番町、定禅寺通・勾当台エリアへと続く人の流れを生み出す拠点を目指しています。

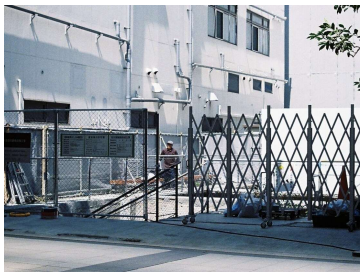
一方、気仙沼市太田地区は、かつて全国各地から漁師が集い、水揚げを終えたあとの飲食で栄えたエリアです。漁港の移転や減船など環境の変化によって、その役割と人が訪れる理由を失っていましたが、東日本大震災を経ても多くの建物が残り、内湾エリアで唯一「昭和の港町」の景色を今に伝えています。

志田氏は、この「現存するもの」をアップデートしながら未来へ継承することを目指し、市役所庁舎移転後のまちづくりの文脈をきっかけに行政と協業。2025 年にアートギャラリー「HAMACHIDORI GALLERY」をオープンし、ギャラリーを中心にしたエリアブランディングに取り組んでいます。かつて全国の漁師が集ったまちを、全国のクリエイターが集う「カルチャーの震源地」へ再構築する試みです。



「別冊浜千鳥 at チカ堂」キービジュアル

仙台と気仙沼。規模も成り立ちも異なる二つのまちで、「エリアを捉えて拠点をつくること」「人の流れを意図的につくること」に取り組む二者が、単体の施設や店舗を越えた、まちづくりの視点を共有します。



チカ堂（旧金港堂本店跡地）



チカ堂オープニングレセプションの様子



チカ堂・サイン看板

■ トークセッションの主なテーマ

- ・なぜ、その場所／プロジェクトをつくったのか
- ・エリアをどう捉え、拠点をつくったのか
- ・人の流れが生まれることで、その地域にどのような価値が生まれるのか
- ・既存の建物や場所の文脈を、新しい使い方へどう繋げていくか
- ・行政・企業・民間・個人など、異なるプレイヤーが関わる際に大切なこと
- ・仙台／気仙沼、それぞれのエリアで今後起こしていきたい変化

■ トークセッション登壇者

佐々木 和之（ささき かずゆき）

株式会社ユーメディア 上席執行役員

仙台市生まれ、仙台育ち。印刷を祖業とする株式会社ユーメディアにて、東日本大震災をきっかけに、代表とともに印刷以外の事業への領域拡大に注力してきた。同社は近年、拠点づくりにも力を入れ、旧印刷工場を改装した地元スタートアップ向けのウェットラボや、サンモール一番町商店街の旧金港堂本店跡地を活かした「チカ堂」などを展開している。同社の一員として事業の方向性づくりに携わりながら、「仙台を盛り上げたい」という思いのもと、場づくりに取り組んでいる。

志田 淳（しだ あつし）

memento mori 代表／HAMACHIDORI GALLERY 主宰

1992 年、宮城県気仙沼市生まれ。大学在学中に東日本大震災が発生し、古着を活用した支援活動を開始。その後、アパレルブランド「memento mori」を立ち上げる。大学卒業後は気仙沼へＵターンし、グラフィックデザインの活動を本格化。クリエイティブディレクター、グラフィックデザイナーとして様々なプロジェクトに参画。2025 年にはアートギャラリー「HAMACHIDORI GALLERY」をオープン。気仙沼まち大学運営協議会、コミュニティ FM「ラヂオ気仙沼」のパーソナリティなど、気仙沼市内で多角的に活動。本トークセッションの進行を務める。

■ 開催概要

イベント名	別冊浜千鳥 at チカ堂 トークセッション「回遊をつくるエリアリノベーション。まちはどう変わる？」		
日時	2026 年 10 月 24 日（土）18:00～（60 分程度）	参加費	無料（飲食代は別途）
会場	チカ堂（仙台市青葉区一番町 2 丁目 3-26 サンモール一番町・旧金港堂本店跡地）		
登壇	志田淳氏、佐々木和之(株式会社ユーメディア)	定員・申込	定員なし・予約不要
主催	memento mori	共催	チカ堂プロジェクト（株式会社ユーメディア）

■ チカ堂について

チカ堂は、仙台・サンモール一番町商店街の旧金港堂本店跡地に、2026 年 8 月 5 日に誕生したコミュニティスペースです。「金港堂本店」の地下構造体や階段を活かして再整備し、天井のない屋外地下空間を、目的がなくてもふらっと立ち寄れる「地下の公園」としてまちにひらきました。飲食や交流、学び、表現、さまざまなイベントを通して、人と人、人と文化、人とアイデアがつながる「未完成の広場」です。施設内のコンテナ型飲食店「m chika.」では、牡蠣や軽食、東北の地酒、ビール、ワイン、コーヒーなどを提供しています。

一般入場：無料（飲食代・有料イベント参加費は別途） | 公式 Instagram：@_chika_do_

■ 本件に関するお問い合わせ

チカ堂プロジェクト（株式会社ユーメディア内） 担当：佐藤（さとう）

MAIL：aoi-sato@u-media.jp TEL：080-8225-0001

取材は当日、会場にて受け付けます。事前のご質問は上記担当までお問い合わせください。